佐賀大学 教職大学院 広報誌

院生ライフレポート



９月号では、各コースの探究実習の様子を紹介しました。今回は、これまでの実習を振り返り、現場での経験を通して得た気づきや学びについてお伝えします。実習先や研究テーマはそれぞれ異なりますが、大学院で学んだことを実践と結び付けながら、一人一人が探究を深めています。授業づくりや子どもへの支援、教育行政の取組など、さまざまな立場から教育に向き合うことで、これまでとは違った視点や新たな発見を得る機会となりました。

各コースの実習を振り返って

●授業実践探究コース

授業実践探究コースの現職教員等学生です。今年の３月までは小学校教員として勤務してきました。今回の探究実習では、異校種実習として中学校で学ばせていただきました。約半年ぶりの学校現場に不安や緊張もありましたが、授業や休み時間を通して生徒たちと少しずつ関係を築き、とても充実した時間を過ごすことができました。授業づくりでは、子どもの思考に寄り添い、一人一人の学びを支えることの大切さを改めて実感しました。生徒の皆さんや先生方との出会いに恵まれ、多くの学びを得られた貴重な実習となりました。

●子ども支援探究コース

現任校とは異なる障害種の学校で１か月間、全ての学部の授業に参加しました。その中で、研究テーマに基づく探究の視点をもちながら、子どもたちの実態や発達段階に応じた教師の手だてや関わり方について理解を深めることができました。また、卒業後の生活を見通した支援の重要性についても学ぶことができました。これらの気付きや学びを、今後の研究活動及び教育現場での実践に還元していきたいと思います。

●教育経営探究コース

教育経営探究コースでは、教育行政機関に実習に行きました。今年度の実習先は、県の教育委員会、教育事務所、教育センターでした。それぞれの実習先で、学校訪問や実習先が主催する研修の運営補助などに関わらせていただきました。これらの実習から、国や県が進める教育施策や組織運営の在り方について学び、これから我々教育経営探究コースの学生が進めていく、学校改善の方略を考える一助となりました。

１０月からは後期の授業もスタートしました。前期の学びや実習で得た気づきを生かしながら、それぞれの研究をさらに深めていきたいと思います。また、研究を通して得られた学びを、今後の教育現場でどのように生かしていくかについても考えていきたいと思います。コースごとの授業が増え、全員で学ぶ授業は少なくなりましたが、コースを越えたつながりも大切にし、互いに刺激を受けながら、より充実した学びとなるよう励んでいきます。

編集者 K&K